



日本子ども学会

小林 登「子ども学」賞を創設

～学際的な子ども研究・実践を顕彰～

「子どもは未来である」。日本子ども学会の創設者である小林登先生は、子どもを尊重する社会であれば、私たちの未来はつねに明るいものになると考えておられました。2019年のご逝去まで、ご専門の小児医学を超えて、幅広い分野の学問に関心をもたれ、子どもの幸せに配慮した社会をつくることに尽力されました。このような小林先生の志を次世代につなぐために、日本子ども学会では、学会設立20周年の記念の年である2023年に、そのお名前を冠した学術賞を創設することにいたしました。

◆ 小林 登「子ども学」賞

<賞の趣旨>

本賞は、自然科学や人文科学を包括し、子どもにかかわる学際的・環学的な学問領域において、子ども研究を深め、創発する業績、並びに、子どもの生活環境を豊かにする成育デザインの開発や、子どもの問題の解決に寄与する実践などを顕彰し、その業績を讃えるものである。そのことにより、人間科学に関する他領域の関係者で、それらの成果を共有し、小林登先生の提唱された「子ども学」への関心を高め、子どもの幸せに資する知識の体系化や社会システムの構築へとつなげていくことを目的とする。

● 賞の内容

記念盾 賞金5万円

● 授賞対象

- 1.公表された業績（論文、著作、実践報告等）
 - 2.団体・個人による実践活動
- ※日本子ども学会の会員の業績に限定されません。

● 推薦・審査方法

日本子ども学会の会員に対して候補者・団体の推薦を募ります。推薦者は、候補者・団体の情報および推薦理由を応募用紙に記入し、運営委員会に提出します。取りまとめられた各候補者・団体を、審査委員会の7名の審査委員が慎重かつ厳正に審査し、授賞者を理事会で決定します。

● 主なスケジュール

- 2022年11月 候補者の推薦開始予定
- 2023年3月 候補者の受付締め切り
- 2023年4月～7月 審査
- 2023年9月 授賞者の決定
- 2023年10月 授賞式

<問い合わせ先>

日本子ども学会 小林 登「子ども学」賞係

詳細は日本子ども学会のホームページをご覧ください（推薦を希望される会員の方は、推薦書をダウンロードください）。

なお、お問い合わせにはメールでご返答差し上げます。

<https://kodomogakkai.jp> E-mail:kodomo-post@bunken.co.jp

<日本子ども学会>

「子ども学」の発展普及のために2003年設立。自然科学から人文科学に至るまで幅広い分野の研究者や実践家が集う開かれた学会をめざす。毎年学術集会である「子ども学会議」を実施。年2回学術誌として「チャイルドサイエンス」を発行。2019年日本学術会議協力学術研究団体に認定される。



小林 登 1927-2019

日本子ども学会初代理事長、後に名誉理事長。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。「子ども学」を提唱し、子どもに関する学際研究のコーディネーター役を果たした。海外の研究者とも幅広いネットワークをもち、領域を問わず、子ども研究を豊かにする研究者たちとの交流を深めた。

1927年東京生まれ。海軍兵学校を経て、1954年東京大学医学部医学科卒業。米英留学後、1970年東京大学医学部小児科教授。1980年国際小児科学会会長。1984年国立小児病院小児医療研究センター初代センター長。1987～96年国立小児病院院長。1996年よりインターネットによる子ども学研究を推進するチャイルド・リサーチ・ネット所長。2003年に日本子ども学会を創設。多くの政府委員、学会役員を務めた。

会員の皆様

本年11月から候補者の推薦を募ります！

第18回 子ども学会議(学術集会)のお知らせ



**Withコロナ社会で生きる子どもたち
その発達と未来を考える**



第18回子ども学会議は2022年10月8日(土)・9日(日)の両日、東海学院大学(岐阜県)にて開催されます。現在、猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、子どもの心身の健康、家庭の経済状況、学習や発達、将来展望に深刻な影響を与えています。感染症への不安・恐怖、自粛・我慢を強いられる先行きの見えない生活の中で、孤独・孤立、不安・抑うつ・ストレス、睡眠・食・生活リズムの乱れ、学校に行きづらいつと感じる子ども、自傷行為、自殺者数の増加など、コロナ禍に伴う子どもの多様な「いのち・生活・学び・発達」の困難が国内外で報告されています。

このような状況であるからこそ、子どもの日常の生活基盤を取り戻し、希望をもって生きていくことができるような発達支援システムの創出が求められています。それゆえに本学術集会では、コロナ禍に伴う子どもの「いのち・生活・学び・発達」の困難の現状と発達支援の課題について検討するために、基調講演・基調報告・特別報告・シンポジウム2件を企画しました。また理事会企画として、現代的課題である「ギフトと子どもの多様性」のシンポジウムも開催いたします。

【日時】2022年10月8日(土)・9日(日)
【会場】東海学院大学(岐阜県各務原市/JR岐阜駅からバス20分)

**事前参加
申込募集中!!**
詳しくは日本子ども学会のHPをご覧ください

- 参加費：事前登録(ポスター発表、懇親会費を含む) 学会員4,000円、一般5,000円、学生・院生1,500円
当日/学会員5,000円、一般6,000円、学生・院生1,500円、高校生以下無料
- 大会長：神谷眞弓子(東海学院大学理事長・学長)
- 大会準備委員長：池田敦子(東海学院大学人間関係学部客員教授)
- 後援：岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、各務原市教育委員会、羽島市教育委員会、愛知県教育委員会、岐阜県民間保育園・認定こども園連盟、岐阜県社会福祉協議会
- ポスターセッションは大会テーマ「Withコロナ社会で生きる子どもたち その発達と未来を考える」に係る「特別テーマ」と「一般テーマ」でポスター発表を行います。(募集終了)

Program プログラム

詳細は、日本子ども学会のHPで!
<https://kodomogakkai.jp/>

第1日
10月8日
(土)

- 10:00~10:20 オープニング・セッション(大会長・大会準備委員長挨拶)
- 10:20~11:10 基調講演「新型コロナウイルス感染症が子どもの成長・発達に与える影響」
榊原洋一(お茶の水女子大学名誉教授)
- 11:10~12:00 基調報告「コロナ禍に伴う子どもの『いのち・生活・学び・発達』の危機の現状と発達支援の課題」
—小中高校生・保護者・教師の全国調査から—
田部絢子(金沢大学人間社会科学研究域学校教育系准教授)
- 12:00~13:00 昼休み
- 13:00~14:25 ポスターセッション
- 14:35~16:50 シンポジウム①「コロナ禍に伴う子どもの『いのち・生活・学び・発達』の危機の現状と発達支援の課題」
高橋亜美(アフターケア相談所「ゆずりは」所長)、内田 良(名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授)、
竹内章郎(岐阜大学名誉教授)
司会:高橋智(日本大学文理学部教育学科教授)、田部絢子(金沢大学人間社会学会域学校教育系准教授)
- 17:00~18:30 イブニング・セッション/研究交流会、ポスター発表優秀賞表彰式

第2日
10月9日
(日)

- 9:40~11:25 理事会企画・シンポジウム「ギフトと子どもの多様性」
安藤寿康(慶應義塾大学文学部教授)、角谷詩織(上越教育大学大学院学校教育研究科教授)、当事者の方
- 11:30~12:45 昼休み・学会総会
- 12:50~13:30 特別報告「北欧五か国におけるコロナ禍に伴う子どもの『いのち・生活・学び・発達』の困難と発達支援の動向」
能田昂(尚絅学院大学総合人間科学系専任講師)
- 13:35~15:50 シンポジウム②「コロナ禍に伴う子どもの『いのち・生活・学び・発達』の危機の現状と発達支援の課題②」
奥田宣子(山県市立高富中学校教頭)、A大学学生、小森淳子(岐阜協立大学非常勤講師)
司会:杉山章(東海学院大学人間関係学部准教授)、池田敦子(東海学院大学人間関係学部客員教授)
- 15:55~16:10 クロージング・セッション
大会準備委員長挨拶・次期大会準備委員会より挨拶

チャイルド・サイエンス

投稿論文部門 原稿募集について

投稿種別

投稿者は投稿時に論文の種別（下記参照）を選択し明示してください。なお、査読の過程で、論文内容に即して種別の変更をお勧めすることがあります。

● 研究論文

いずれかの研究領域の理論と方法を背景としつつ、子どもに関する学際的な問題について研究した成果をまとめたもの。

● 研究ノート

子どもをめぐる様々な事実や状況を検討して研究の課題を提示したり、子ども学として確立していくべき研究の方向性を示したりする萌芽的な研究や展望、提言など。

査読体制

- 論文の投稿は随時受け付けます。
- 投稿論文の採否は、編集委員会の議を経て依頼された査読者2名と編集委員（長）の合計3名による審査によって決定します。査読者のうち1名は原則として投稿された論文の研究領域（または最も近いと判断される領域）の研究者とし、もう1名は研究領域にこだわらずに選ばれます。
- 査読者および編集委員（長）は、投稿論文とそのもとになった研究をよりよいものにしていくという観点から、書面によってコメントします。特に修正のコメントがない場合を除き、コメントを付していったん投稿者に返却し、論文の修正をお願いします。
- 修正・再提出された論文に対して査読者および編集委員（長）は同様の手続きを行い、採択・不採択を合議によって決定します。
- 採択・不採択にかかわらず、コメントは再び投稿者に返却されますので、今後の研究に生かしてください。また不採択の場合でも、修正の上、次年度以降の号で再投稿することができます。以上の過程は投稿者・査読者ともに匿名で行います。なお、査読者については『チャイルド・サイエンス』に氏名の一覧を掲載します。また、採択された論文はその時点で編集集中の直近の号に収録します。
- 【著作権】 本誌に掲載された論文の著作権は日本子ども学会に帰属しますので、掲載論文を無断で複製および転載することを禁じます。所属機関リポジトリ等への掲載を希望される場合は、編集委員会にご相談ください。

執筆要項

- ① 投稿者は、研究を進めるにあたって、倫理的問題に十分配慮することが求められます。
- ② 会員、非会員を問わず投稿できます。非会員は、論文が採択された場合、日本子ども学会の年会費の振込みをもって学会誌に掲載いたします。
- ③ 「研究論文」は10000字以内かつ刷り上がり5ページ以内、「研究ノート」は8000字以内かつ刷り上がり4ページ以内とします。図表等もこの範囲に収めてください。
- ④ 原稿はワードプロセッサで作成し、投稿は電子ファイルを添付して、編集部宛にメールで送信してください。
- ⑤ 本文とは別に表紙を作成してください。表紙には論文タイトル、筆頭著者・共同著者の氏名、所属および職名、連絡先（住所・電話・メールアドレス）、および「研究論文」「研究ノート」の別を明記します。表紙の様式は下記ホームページからダウンロードしてください。また、本文にはタイトルのみを明記し、氏名等は記入しないでください。本文には500字以内の和文要約、および5項目以内のキーワードを付けてください。
- ⑥ 図表の描き方、引用文献、注の付け方などはそれぞれの領域の原則に従います。それがない場合は、以下の諸点に注意して作成してください。
 - (1) 図表は別紙に書き、図1、表1のように通し番号を付けます。
 - (2) 表の題はその上部に、図等の題は下部に、説明文はいずれも下部に書くこととします。
 - (3) 引用文献は、論文の最後に著者名のアルファベット順に一括して挙げてください。
 - (4) 引用文献は、著者名・発行年・題目・発行所の順に記述します。
 - (5) 注は通し番号を付け、別紙に記載します。本文中にはそれに対する番号を付してください。

★詳細情報はこちらに掲載します

日本子ども学会ホームページ
<https://kodomogakkai.jp/>

日本子ども学会 役員・理事のご紹介

■ 理事長

榎原洋一（お茶の水女子大学名誉教授）

* 編集委員長兼務

■ 副理事長

安藤寿康（慶應義塾大学文学部教授）

* 研究・開発委員長兼務

太田美代（社団法人 環境政策対話研究所理事）

■ 事務局長

木下 真（福祉ジャーナリスト）

■ 常任理事

一色伸夫（こどもメディア研究所所長）

* 広報委員長兼務

小林美由紀（白梅学園大学子ども学部教授、小児科医）

* 財務委員長兼務

沢井佳子（チャイルド・ラボ所長、日本こども育成協会理事）

菅原ますみ（白百合女子大学人間総合学部教授、お茶の水女子大学名誉教授）

所 真里子（保育の安全研究・教育センター）

* 事務局長補佐兼務

仁木和久（慶應義塾大学訪問研究員、脳認知科学研究所総括研究員）

* 会員・規約委員長兼務

宮下孝広（白百合女子大学人間総合学部教授）

劉 愛萍（チャイルド・リサーチ・ネット主任研究員）

渡辺富夫（岡山県立大学情報工学部特任教授）

■ 理事

朝倉民枝（株式会社グッド・グリーン代表取締役）

浅田 稔（大阪国際工科専門職大学副学長、大阪大学先導的学際研究機構特任教授、大阪大学名誉教授）

安倍嘉人（弁護士、公益社団法人家庭問題情報センター理事長）

石渡正志（甲南女子大学人間科学部教授）

井上高光（さつき幼稚園理事長）

内田伸子（環太平洋大学教授、お茶の水女子大学名誉教授）

内田ふみ子（子ども大学よこはま事務局）

遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科教授）

大橋節子（学校法人 創志学園副理事長、環太平洋大学学長）

長田有子（NPO法人 チャイルド・ケアリング・アソシエーション理事）

河合優年（武庫川女子大学教授）

桐山伸也（静岡大学大学院情報学領域教授）

坂上浩子（NHKエデュケーショナル特別業務主幹）

酒井 厚（東京都立大学人文社会学部教授）

佐倉 統（東京大学大学院情報学環教授）

佐々木玲子（慶應義塾大学体育研究所教授）

佐藤朝美（愛知淑徳大学人間情報学部教授）

島田将喜（帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授）

瀬尾知子（秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座准教授）

竹下秀子（追手門学院大学心理学部教授）

高塩純一（びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士）

竹林洋一（みんなの認知症情報学会理事長、静岡大学名誉教授）

田部絢子（金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授）

塘 利枝子（同志社女子大学現代社会学部教授）

中井昭夫（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科・子ども発達科学研究センター教授）

服部 弘（一般社団法人 OGU 総合研究所副代表）

林 美里（中部学院大学教育学部准教授、日本モンキーセンター学術部長）

原島 博（東京大学名誉教授）

開 一夫（東京大学大学院総合文化研究科および情報学環教授）

福澤利江子（筑波大学医学医療系助教）

眞榮城和美（白百合女子大学人間総合学部准教授）

■ 監事

森脇浩一（埼玉医科大学総合医療センター小児科教授）

■ 顧問

箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）

〈50音順、2022年9月30日現在〉

事務局だより

2022年度の会員数は8月時点で、正会員559名、学生会員20名、賛助会員15団体になります。昨年と比べると正会員が14名減少し、学生会員も増加傾向にはありません。

新型コロナウイルスの影響で、社会全体に講演会やシンポジウムなどの活動は激減しています。さらに大学でも対面活動の制限によってイベントやサークル活動などが難しくなっていて、文化的な活動が全般的に低調になってきて

いるようです。

コロナ禍の中で新たな会員を獲得するために、オンラインによる子ども学カフェやコロキアム、Facebookなども実施していますので、ぜひご参加とともに外部へのお声がけをお願いいたします。また、会員の皆様によるWithコロナの中での学会活動のご提案や新たな会員獲得のための呼びかけも期待しております。

2023年から実施する【小林登「子ども学」賞】は、小林先生の志を次世代につなぐとともに、「子ども学」および「日本子ども学会」の認知度を改めて高めたいという思いがあります。その賞の概

要が定まりましたので、学会のホームページなどで、ぜひご覧いただきたいと思

います。
賞の候補者の選定に関しては、日本子ども学会の会員の皆様に候補者または候補団体の推薦をお願いする所存です。授賞対象は、当学会の会員の業績に限定せず、社会全般の「公表された業績（論文・著作・実践報告等）」と「個人・団体による実践活動」になります。賞の内容は「記念盾と賞金5万円」。本年の11月から推薦受付をスタートさせる予定です。

(木下 真・所真里子)

「日本子ども学会」は、会員を募集中です。

■ 詳しい情報は、日本子ども学会のホームページをご覧ください。(入会申込書もダウンロードできます)

日本子ども学会ホームページ <https://kodomogakkai.jp/>

■年会費

正会員 / 5,000円
学生会員 / 3,000円
賛助会員 / 30,000円

■入会・会員登録に関するお問い合わせ先

「日本子ども学会 事務局」

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (担当: 篠原)
Tel.03 (6824) 9370 Fax.03 (5227) 8631
E-mail: kodomo-post@bunken.co.jp



チャイルド・サイエンス Vol.24

発行日：2022年9月30日

発行：日本子ども学会
<https://kodomogakkai.jp/>

編集：日本子ども学会 編集委員会
(榊原洋一、佐藤朝美、朝倉民枝、石渡正志、梅永雄二、
太田美代、大橋節子、北野幸子、木下 真、酒井 厚、菅原ますみ、
瀬尾知子、眞榮城和美、宮下孝広、渡辺富夫)

編集協力：木下編集事務所、株式会社インタレスト

デザイン：シモサコグラフィック

印刷・製本：株式会社総北海

ISBN978-4-909336-10-1



子ども学、アジア全域へ

CRNアジア子ども学研究ネットワーク (CRNA) 活動中

近年、急速な発展を遂げているアジア。
 子どもを取り巻く環境も日々変化し、様々な問題を抱えています。
 CRNでは、アジアの子どもを取り巻く諸問題の解決の糸口を探るために
 「CRNアジア子ども学研究ネットワーク」を展開し、
 アジア各国を代表する子ども研究の専門家のネットワークを構築しています。

<https://www.crn.or.jp/>

※これまでの東アジアでの活動も、こちらからご確認いただけます。



子どもに関心をおもちの方ならどなたでもアクセスしていただきたい。CRNは日本国内のみならず、グローバルな視点で子どものことを研究していくための国際的な「場 (arena)」を提供してゆきたいと思えます。是非有効にご活用ください。

CRN所長 神原洋一

子どもたちの笑顔のために、学際的な視点から活動しています



子どもは未来である



チャイルド・リサーチ・ネット
 「子ども学」研究所

CHILD RESEARCH NET
 We are a non-profit organization in Japan devoted to thinking with and about children

<https://www.facebook.com/crn.jp>
https://twitter.com/crn_jp

“子ども”に関心をおもちの方は、今すぐ

CRN

検索

日本子ども学会

〒162-0801
東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
Tel.03(6824)9370
Fax.03(5227)8631
E-mail : kodomo-post@bunken.co.jp

ISBN978-4-909336-10-1

頒布価格：本体 1700円 (送料・税込)